

高梁市吹屋(岡山県)

(1) 保存地区の概要

地区名 高梁市吹屋

種別 鉦山町

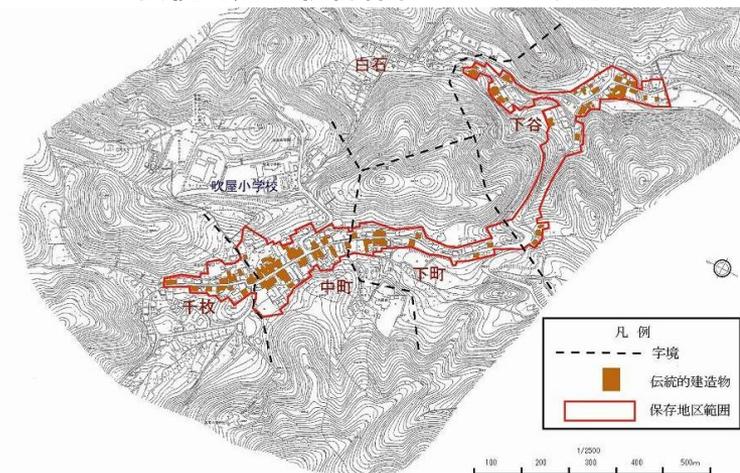
面積 約6.4ヘクタール

選定年月日 昭和52年5月18日

特徴 高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区は、岡山県西部吉備高原上の山間地に位置する。吹屋は近世以降、銅山とベンガラで繁栄した鉦山町で、起伏の多い丘陵上の往来に沿って、町家主屋や土蔵等が建ち並んでいる。屋根は赤褐色の石州瓦で葺かれ、赤い土壁や白漆喰壁の平入・妻入の町家が混在し、地方色豊かな町並み景観を呈している。



伝統的建造物群保存地区 区域図



(2) 保存地区のあゆみ

昭和49年度(1974) 「岡山県ふるさと村」の指定を受ける

昭和52年度(1977) 「伝統的建造物群保存地区保存条例」制定

『重要伝統的建造物群保存地区』選定(5月)

修理修景事業開始

昭和53年度(1978) 吹屋町並保存会を結成

昭和62年度(1987) 防災施設完成

平成2年度(1990) 「おかやま景観賞」受賞

平成18年度(2006) 「旧片山家住宅」が国の重要文化財に指定

平成24年度(2012) 「都市景観大賞」受賞

(3) 保存地区の保存と整備

● 主な事業

・修理・修景事業 138件

修理前

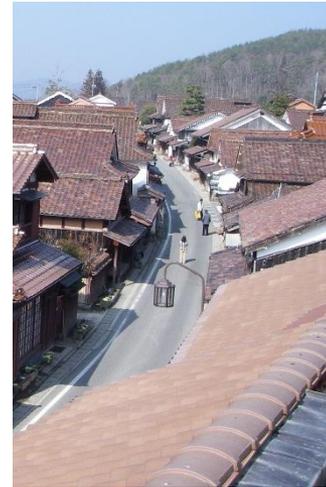


修理後



・道路の美化

修理前



修理後



・防災事業(消火栓設置など)



・案内説明看板の設置



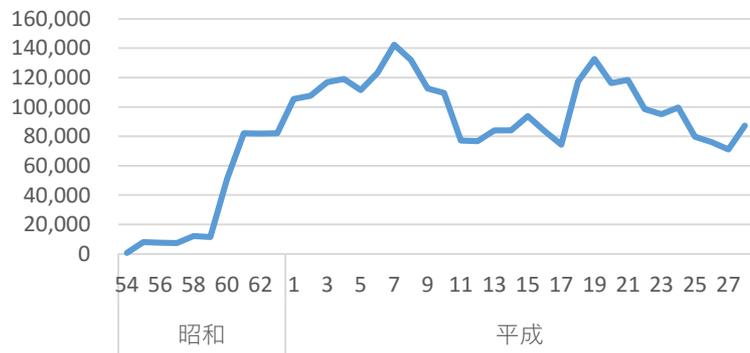
高梁市吹屋(岡山県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 伝統的建造物の活用とまちづくり

重要伝統的建造物群保存地区の選定により、町並みへの来街者数は上昇し、現在では10万人前後で推移しています。近年では、家屋や町並みを活用したイベント等により、来街者数を保っています。

町並み来街者数(人)の推移



●「ベンガラアート展」

家屋を活用した、ベンガラをテーマにしたアート展です。



●「吹屋ベンガラ灯り」

町並みで多くの観光客に囲まれ、吹屋小唄踊りを披露します。



●「ヒルクライムチャレンジシリーズ 高梁吹屋ふるさと村大会」

町並みがゴール地点となり、地域を上げておもてなします。



●「ベンガラ染め体験」

オリジナルのトートバック作りなど体験できます。



高梁市吹屋(岡山県)

その2 店舗の増加、空き家の活用

保存修理工事が終わった家屋の内装を改修し、店舗として活用を図ったり、空き家を古民家再生事業により、滞在型宿泊施設として整備しました。



改修後飲食店をオープン



滞在型宿泊施設

(5) 住民等の取組

●観光ガイド

地元住民で構成する「吹屋観光ガイド会」は、選定後、すぐに設立され、吹屋の歴史について研究し、伝統的建造物群保存地区内を中心に案内し、来街者の方に喜んでいただいています。



●移住者の声

ベンガラで栄えた町並みが残る吹屋に魅了され移住しました。冬は少し寒いですが、そこに暮らす人はとても温かく、暮らしていてとても楽しいです。



●町並保存会役員の声

— 重伝建選定40年が経過して —

銅とベンガラで繁栄した吹屋地区は、産業の衰退に伴い過疎化が急速に進行し流出・減少となりましたが、立派な家屋が連なる町並みは残りました。その町並みの保存に向けて、いち早く伝建選定に取組み、今に至っています。現在の家屋保存の状況は、所有者の世代交代もあり保存・継承が厳しく、空き家の増加、中には放置・崩壊の危機に直面する家屋も見受けられます。その打開策の一つとして、近年若者の移住に期待が寄せられています。

町並み保存とは、連続する家屋の保存であり、家屋保存は人が住んでこそ守られるものであり、空き家対策が大きな課題であります。この課題解決に向けては、最早内輪の話に留めず、幅広く様々な方々の意見を聞きながら、家屋に人が住む方策を探らなくてはなりません。これからの町並み保存の方向性は、空き家の解消と活用を進めることです。それ

には、家主の協力が不可欠で、地元の頑張りが肝要だと考えます。

